

2023~	ソーシャルワーク論	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	田中 尚	

■授業のテーマ

ソーシャルワーカーの実践力の向上及び実践環境の構築とそのために必要とされるソーシャルワーク理論

■授業の目的

ソーシャルワークの実践理論・モデルと実務・実践活動を結び付け、理論・モデルに基づく対象把握、実践を行えるようにさせる。

■授業の到達目標

- ・ 3つの対象レベル（個人・組織・地域）において、ソーシャルワークの実践理論に基づき、対象の統合的な理解・把握、アセスメントができる。
- ・ ソーシャルワークの理論・モデルと結び付けて、自身の実践の計画・振り返り・改善を行う。
- ・ エコマップ等、視覚でとらえ、説明し、相手の理解が得られるよう、カンファレンス等で使えるためのツールを身につける。

■授業の概要

ソーシャルワークの実践力の向上と人材育成は、一般的な「福祉教育」、教育機関による専門教育、実践現場での研修やスーパービジョンなど、重層的に行われているが、ソーシャルワーク分野は、従来の福祉六法の範囲はもちろん、新たな分野にも広がりを見せており、それらの領域での人材不足は実践現場で深刻な問題となっている。ここでは、学生それぞれが自身の関心分野・領域を定め、それについて文献等の調査を行い、実践力の向上と人材育成に焦点を当て、その歴史的経緯を検討し、また、他国や他分野との比較を試み、ソーシャルワーク実践の課題を考察する。さらに、ソーシャルワーク理論やその価値とするところを確認し、実践上の現状とその課題を検討する。検討の枠組みとしては、ソーシャルワークの実践力の向上と人材育成の実践に使用する知識・技術の基盤となる自我心理学、認知・行動理論やエコシステム論など、ソーシャルワークの主要理論の適用などを検討する。ジェネラリスト・ソーシャルワークの理解を踏まえて、ミクロ・メゾ・マクロの各視点からのソーシャルワーク実践の理解を深め、価値を生み出すキーワードとして、社会構成主義の観点を取り上げ、実践を批判的に分析することを行う。

■レポート課題

課題 1	ソーシャルワークサービスの質とソーシャルワーカーの実践力の向上との関連を理解し、人材育成の現状と課題について、ソーシャルワークの価値に基づいて考察する。	【提出期限】 <input checked="" type="checkbox"/> 対面授業1週間前まで <input type="checkbox"/> 対面授業前日まで <input type="checkbox"/> その他 ()
課題 2 (事後課題)	ソーシャルワークの理論とその実践における課題、実践上のジレンマ（ジレンマへの対応を含めて）について考察する。	【提出期限】 <input type="checkbox"/> 対面授業後1ヶ月以内 <input checked="" type="checkbox"/> 受講年度の最終レポート受付日まで <input type="checkbox"/> その他 ()

■アドバイス

課題1 アドバイス

授業の到達目標、概要などを読んで、レポートで取り組む内容をできるだけ絞ることが大切です（広すぎると与えられた文字数では、学部教科書レベルの内容をまとめただけになってしまいます）。また、大学から送られてくる参考文献だけでは求められるレポートの質に到達することが困難であるため、自身の関心に従ってレポート課題（テーマ）に関する文献を探し出す努力が必要です。大学からの参考文献は、そのためのガイドとして考えてください。

課題2 アドバイス

目標は、ソーシャルワーカーの実践力の向上とその実践環境についての検討・分析能力を高めることにあるため、それを意識して、価値・理論・知識・技術を選び、具体的な理解までを目指してください。上記の内容以外でも構いませんが、実際に実践・事例を検討・分析することを念頭に選んでください。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	社会福祉実践および実践研究の基本的考え方	質的研究、量的研究、文献調査、参加観察、面接、アンケート、フィールドワーク、エスノグラフィ、研究倫理	様々な研究方法があること、研究倫理の遵守が必須であることを理解する。社会福祉研究論文の幾つかを読み、研究論文の例として参考にする。
2	ソーシャルワークの全体像の把握と確認①	ソーシャルワークにおける価値観	社会構成主義とは何か、その歴史的位置付けは何かを文献から知る。
3	ソーシャルワークの全体像の把握と確認②	エコシステム理論	生態学的視点とシステム論について調べる。
4	ソーシャルワークの全体像の把握と確認③	エコシステム理論の実践への適用	マイクロ・メゾ・マクロ、および各システムの相互作用について、実例を用いて考察する。
5	人材育成に関する理論①	認知・行動理論	認知・行動理論のソーシャルワークへの適用について理解する。
6	人材育成に関する理論②	精神分析・人間性心理学	精神分析的アプローチや人間性心理学のソーシャルワークへの適用について理解する。
7	ソーシャルワーカーの育成(実践力の向上と実践環境)①	教育機関におけるソーシャルワーク教育	参考文献を中心に文献調査より、歴史、組織、カリキュラムなどについて調べる。
8	ソーシャルワーカーの育成(実践力の向上と実践環境)②	現場における育成・訓練	現場における学びの特徴、OJT、Off-JT、Self Development、研修体制について調べる。
9	ソーシャルワーカーの育成(実践力の向上と実践環境)③	スーパービジョン	スーパービジョンの定義、種類、機能、プロセス、技術、倫理、体制について調べる。
10	ソーシャルワーカー育成の歴史・制度	他国との比較	アメリカ、イギリスなど、他国の現状と人材育成やその制度の歴史を文献から学ぶ。
11	ソーシャルワーカーの実践力向上①	個人への介入	心理療法・カウンセリングの諸アプローチ・技術を意識する。
12	ソーシャルワーカーの実践力向上②	家族への介入	家族療法の視点からシステム論的思考のあり方を理解する。
13	ソーシャルワーカーの実践力向上③	組織への介入	社会構成主義の観点から現状を考察する。
14	ソーシャルワーカーの実践力向上④	制度への介入	マイクロ・メゾ・マクロの相互関連性を理解する。
15	ソーシャルワーカー育成上の課題	ソーシャルワーク価値との比較検討	ソーシャルワークサービスの質とソーシャルワーカーの実践力の向上との関連を理解し、人材育成の現状と課題についてソーシャルワークが尊重する価値に基づき批判的に考察する。(「レポート課題」の課題1に相当)

■スクーリング事前課題（学修時間目安：35時間以上）

- ・「在宅学修15のポイント」の2～6までについて学修し、それぞれについて、自身で調べたことを800字程度にまとめ、2～6までそれぞれ800字であるため、全体で4,000字程度とする（対面の演習の1週間前までに提出。）

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	ソーシャルワークの全体像の把握と確認について、講義する。受講生は、ソーシャルワークの全体像の把握と確認を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	ソーシャルワーク実践理論の歴史の変遷について、講義する。受講生は、ソーシャルワーク実践理論の歴史の変遷を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	ソーシャルワークの実践理論① 自我心理学のソーシャルワークへの適用について、講義する。受講生は、その自我心理学を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	ソーシャルワークの実践理論② 認知行動理論のソーシャルワークへの適用について、講義する。受講生は、その認知行動理論を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	ソーシャルワークの実践理論③ システム理論のソーシャルワークへの適用について、講義する。受講生は、そのシステム理論を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	ソーシャルワークの実践理論④ ストレンクス視点について、講義する。受講生は、そのストレンクス視点を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	ソーシャルワークの展開① 支援を必要とする人との出会い、アセスメント、支援について、講義する。受講生は、その出会い、アセスメント、支援を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
8	ソーシャルワークの展開② モニタリング、評価、終結について、講義する。受講生は、そのモニタリング、評価、終結を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
9	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
10	ソーシャルワーカーの実践力とは何か① ソーシャルワークの機能からみる実践力について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
11	ソーシャルワーカーの実践力とは何か② ソーシャルワーク・スーパービジョンからの理解について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
12	ソーシャルワーカーの実践力とは何か③ ソーシャルワーカーの人材育成からみる実践力について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
13	ソーシャルワーカーの実践力の向上とは何か ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
14	ソーシャルワーカーの実践力の向上と実践環境について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
15	まとめ ソーシャルワークの実践と理論の統合（現状と課題）について、提示する事例又は自身の実践に照らし検討する。受講生は、グループワークを用い、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■評価の方法・基準

- ・事前課題レポート (25%)
- ・全スクーリング (50%)
- ・事後課題レポート (25%)

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- * 1) 久保紘章・副田あけみ (2005)『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店.
- 2) 日本社会福祉学会機関誌 (最新版)『社会福祉学執筆要領「引用法」』(コピー)
- 3) 伊藤淑子 (1996)『社会福祉職発達史研究：米英日三カ国比較による検討』ドメス出版.
- * 3) の図書は、新品在庫僅重版予定無しのため配本できませんが、非常に大切な内容ですので、中古を入手する、または図書館で借用するなどしてお読みください。
- 4) 好井裕明 (2006)『「当たり前」を疑う社会学』光文社新書.
- 5) Schon, D. (1984) The reflective practitioner: how porfessionals think in action, Basic Books. (=2001, 佐藤 & 秋田訳『専門家の知恵』ゆみる出版.)
- 6) 小池和夫編 (2006)『プロフェッショナルの人材開発』ナカニシヤ出版.
- 7) Polanyi, Michael (1996) The tacit dimension. Routledge & Kegan Pau. (=1980. 佐藤敬三訳『暗黙知の次元』紀伊国屋書店.)
- 8) 金井壽宏 (2012)『実践知』有斐閣.
- 9) Gergen, K. (1999) An invitation to social construction, Sage. (=2004, 東村知子訳『あなたへの構成主義』ナカニシヤ出版.)
- 10) Flick, Uwe (1995) Qualitative forschung. (=2002, 小田他訳『質的研究入門』春秋社.)
- 11) 平山尚他 (1998)『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房.
- 12) 太田義弘 (1992)『ソーシャル・ワーク実践とエコシステム』誠信書房.
- 13) 遊佐安一郎 (1984)『家族療法入門：システムズ・アプローチの理論と実際』星和書店.
- 14) Toseland, R & Rivas, R. (1998) An introduction to group work parctice (=2003, 野村豊子監訳『グループワーク入門』中央法規出版.)
- 15) Obholzer, A. & Roterts V. Z, (2006) The unconscious at work: individual and organization stress inhte human services, (=2014, 武井麻子監訳『組織のストレスとコンサルテーション』金剛出版.)
- 16) 高良麻子 (2017)『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル』中央法規出版.
- 17) Goldstein & Noonan (1999) Short-term treatment and social work practice. Simon & Schuster, inc. (=2014, 福山和女他監訳『総合的短期型ソーシャルワーク』金剛出版.